



## 低迷する住宅着工・人口減少の影響 ？

県プレカット協議会でも仕事の急減が話題となっています。統計上の住宅着工数はそれほど減少していないのに仕事が無いのは何故でしょうか？ 戸建ての木造住宅が減少しており、アパートやマンションが増えていることも影響しているようです。令和 4 年度（1 月～12 月）の着工数は全国で 86 万戸（鹿児島 9749 戸）、在来木造率は 43.8%（鹿児島 59.1%）となっている。野村総研は、2030 年には着工数が 70 万戸となり、40 年には 50 万戸以下になると予報値を発表している。他方、既存住宅の流通は 30 年には 19 万戸、40 年には 20 万戸になるという。SDGs の観点から良質の住宅ストックが増えても、新設住宅の減少で、全体としての住宅需要は減少するとしている。従って空き家が増える事となり、2018 年には、全国で 850 万戸以上あると言われ、その空き家率は 13.6%になる。鹿児島県は 18.9%になり。ワースト 6 位になっている。2033 年には空き家率が 30.4%になるとの予測も発表されている。ちなみに、空き家率が 30%を超えると財政破綻をきたすと言われており、2007 年の夕張市の財政破綻の時は空き家率 33% だったそうです。空き家対策特別措置として 3000 万円控除や、空き家のある住宅用地の軽減税率の低減、空き家バンクによる流通の促進など、国や地方行政でもいろいろな対策を打ち出しています。空き家が増える事のデメリットは①景観の悪化 ②町のスラム化 ③放火の増加 ④犯罪の温床 ⑤人口の流出 等が言われており、それによる行政の負担増と、税収が少なくなることが、大きな問題となるようです。

人口減少については先日、国立社会保障・人口問題研究所が発表した将来推計人口によると、2056 年には人口が 1 億人を下回り、出生数は現在の 87 万人から 59 年には 50 万人を割り込むという。また生産年齢人口は 20 年には 7500 万人いたが、70 年には 4500 万人となり、4 割減となる。一方で 65 歳以上は人口の 38.7%となり、2.6 人に 1 人は高齢者となる。年金問題だけでなく、空き家の増加も懸念される場所である。政府の少子化対策に期待したい。

こういった厳しい予測の中で、住宅業界はどのようになるのでしょうか？

新築からリフォーム、低コスト住宅から、こだわりの個性派住宅など、「ポツンと一軒家」のような生活スタイルが増えるのでしょうか？

### 【情報】

「令和 5 年度木とふれあう環境づくり推進事業」が始まりました！

県産材の積極的活用により、子供達が木に触れて親しむ木育環境の整備や、木の良さを実感できる木施設等の整備、木製品の開発などに助成があります。

募集期間 令和 5 年 4 月 10 日～6 月 30 日

問合せ先 県かごしま材振興課 (286-3366)・各振興局・ホームページ

補助額 補助率 1/2 以内で 20 万円～1000 万円

(詳しくは問合せ先へ)

### 【定休日】

6 月は 3, 4, 10, 11, 17, 18, 24, 25 日

7 月は 1, 2, 8, 9, 15, 16, 23, 30 日となります

宜しくお願いします



キジムナーの家（樫空洞丸太）